

UNITIKA
We Realize It!

ファクトブック 2017

2017年3月31日現在
証券コード：3103(東証1部)



プロフィール

経営理念

「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」
それを実現するのは、ユニチカです。

基本方針

当社グループは、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営理念とし、「人々の生活と環境に貢献し、社会的存在感のある企業」を目指しています。当社グループは、経営の基本方針である「機能素材メーカーとしての基盤強化」、「企業体質・株主資本の強化」を推進する中で、社会に貢献することこそ、当社グループの企業価値を高め、ひいては株主に貢献できるものと確信しています。

経営指標

当社グループは、事業活動の成果を示す売上高、営業利益、経常利益を重視しています。また、財務体質強化の観点からは、自己資本比率の向上、有利子負債の削減を念頭に置くとともに、キャッシュ・フローについても重要視し、重点管理しています。

中長期的な経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、更なる飛躍に向け成長への基盤固めを行うべく、2018年3月期を初年度とし、Growth、Global、Governanceの3つの“G”を柱とする新中期経営計画「“G”round 20 ~to The Next Stage (ジラウンド・トゥエンティ・トゥザネクストステージ)」を策定しました。この計画達成に向け、「強みを梃子(てこ)にした一層の事業育成・強化」、「成長市場の獲得強化」、「経営基盤の更なる強化」、「リスクマネジメントの徹底」の4つの課題に重点的に取り組んでまいります。

会社概要

2017年
3月31日現在

設立年月日	1889年6月19日	従業員数	3,671名(連結)
資本金	100百万円	主要事業	①高分子事業、②機能材事業、③繊維事業
売上高	126,219百万円	決算期	3月
営業利益	12,538百万円	証券コード	3103(東証1部)

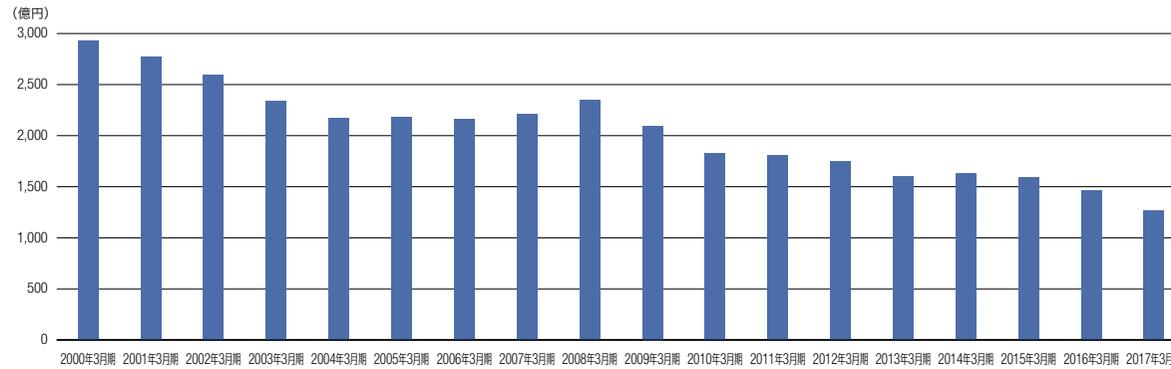


代表取締役社長執行役員
しめ ひろゆき
注連 浩行

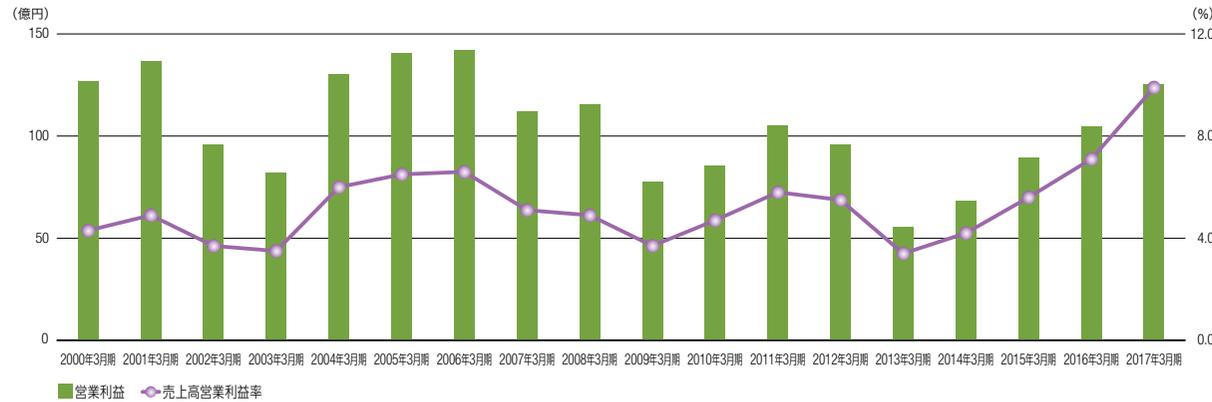
目次	1
プロフィール	1
ユニチカグループの歩み	2
ユニチカグループの事業内容	3
高分子事業-① 事業の紹介	4
高分子事業-② ナイロンフィルムのグローバル展開	5
高分子事業-③ 主な製造拠点と財務ハイライト	6
機能材事業-① 事業の紹介	7
機能材事業-② 主な製造拠点と財務ハイライト	8
繊維事業-① 事業の紹介	9
繊維事業-② 主な製造拠点と財務ハイライト	10
ユニチカグループ一覧	11
財務ハイライト	12
経営実績	12
財務状況	13
キャッシュ・フロー、設備投資額、減価償却費、 研究開発費	14
1株当たり指標、その他指標	15
株式情報	16
株主の状況	16
株価チャート	17
コーポレート・ガバナンス	18

ユニチカグループの歩み

売上高の推移

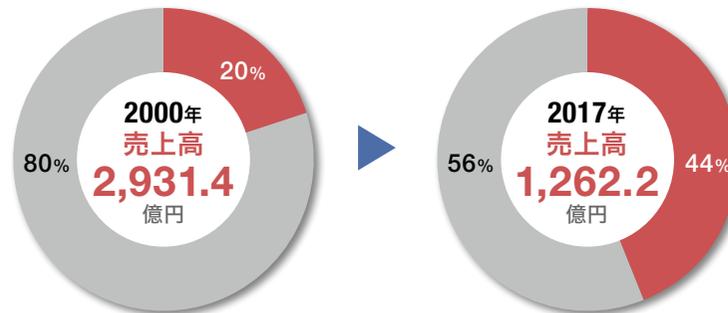


営業利益・売上高営業利益率の推移



セグメント別売上高構成比率： 主力事業である高分子事業の推移

■ 高分子事業 ■ その他事業 (機能材事業、繊維事業、その他事業)



沿革

1850年

89 ・有限責任尼崎紡績会社創立 (6/19)

1900年

18 ・尼崎紡績は摂津紡績を合併し社名を大日本紡績 (株) と改める (6/1)
 26 ・日本レイヨン (株) を設立し、レーヨン糸の製造を開始
 27 ・宇治工場運転開始 大阪で営業開始
 39 ・中央研究所設置 (宇治工場内)

1950年

55 ・宇治工場ナイロン繊維生産開始
 63 ・ガラス繊維事業に進出
 64 ・岡崎工場ポリエステル繊維生産開始
 66 ・ポリエステル繊維及び樹脂製造販売会社日本エステル (株) 設立 (三菱化成 (株) (現在の三菱ケミカル (株))、日本レイヨン (株) (現在のユニチカ (株)) 合併)
 ・ナイロンニ軸延伸フィルムの開発に成功
 69 ・ユニチカ (株) 発足 (10/1) (ニチポー (株) (旧大日本紡績 (株)) と日本レイヨン (株) 合併)
 74 ・ポリアリレート樹脂「Uポリマー」の中間プラント建設
 75 ・岡崎工場でスパンボンド第1号機稼働
 83 ・ポリエステルフィルム「エンブレット」本格生産開始
 87 ・オレフィン系スパンボンド不織布「エルベス」開発
 88 ・大阪ガス (株) と共同で活性炭繊維製造会社 (株) アドールを設立
 89 ・ユニチカ創立100周年
 91 ・コットンスパンレース不織布「コットエース」の生産開始
 95 ・インドネシアにナイロンフィルム製造販売会社 (株) エンブレムアジアを設立
 96 ・タイに帝人 (株)、ユニチカの合併でポリエステルスパンボンド不織布製造販売会社タスコを設立

2000年

05 ・ユニチカガラスファイバー (株)、(株) ユニオンのガラス繊維事業及びガラスビーズ事業を吸収合併
 09 ・衣料繊維事業を再編・統合し、ユニチカ通商 (株) はユニチカトレーディング (株) に号変更
 ・新規型フィルム「ユニビール」を開発
 10 ・高耐熱芳香族系ポリアミドフィルム「ユニアミド」を開発
 ・世界最高レベルの性能を有する耐熱ポリアミド「XecoT/ゼコット」を開発

ユニチカグループの事業内容

ユニチカグループは、当社、子会社32社及び関連会社2社で構成され、「高分子事業」、「機能材事業」、「繊維事業」の3分野にわたり事業活動をしています。

高分子事業
 売上高：55,057百万円(43.6%)
 営業利益：10,035百万円(80.0%)



現 在、ユニチカの核となっているのが高分子技術です。蓄積してきた歴史とノウハウに、日々更新されていく最先端テクノロジーを融合させた高分子技術と深く密接に関係する事業として、フィルム、樹脂、不織布と大きく3つの分野に展開しています。

フィルム分野では、世界初となる同時二軸延伸法を用いたナイロンフィルムで世界トップレベルのシェアを確立するとともに、ポリエステルフィルムは高機能に特化した用途展開を図っています。

樹脂分野では、グローバルニッチ戦略を推進。現在、NANOCONやUポリマーなどのエンジニアリングプラスチックでは全世界を視野に、またエリテールなどの液状の非成型材料は主にASEAN諸国のマーケットで展開しています。

不織布分野では、ポリエステルスパンボンドとコットンスパンレースがアジアでトップシェアを誇り、業界をリードしています。高分子事業では、“ナンバーワン”“オンリーワン”のクオリティを目指した製品で、新たなニーズを生む独自の活動を進めています。

機能材事業
 売上高：12,089百万円(9.6%)
 営業利益：1,130百万円(9.0%)



機 能材事業では、活性炭繊維、ガラス繊維、ガラスビーズを展開しています。主に浄水・空気フィルターとして使われている活性炭繊維は、ニーズに合わせたカスタマイズとともに、他素材との組み合わせによる高機能化を推進。

ヤーンからガラスクロスまで一貫生産されるガラス繊維では、建築・土木用途からプリント配線基板用ガラスクロス等の電子材料用途まで、幅広く、細やかなニーズにも対応する一方で、高付加価値製品の開発で新規用途の拡大も進めています。

国内トップクラスとなるガラスビーズは、ロードマーキングや標識、反射材として使用される他、ユニークな特性から様々な用途で活躍しています。

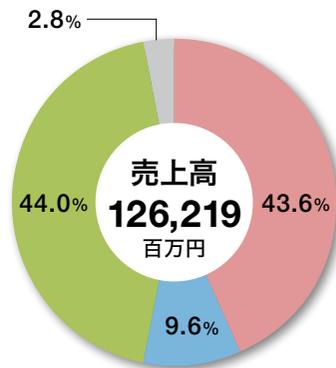
独自性で特殊な用途やこれまでにない性能や製品を生み出す、可能性という名のシーズがここにあります。

繊維事業
 売上高：55,535百万円(44.0%)
 営業利益：1,932百万円(15.0%)



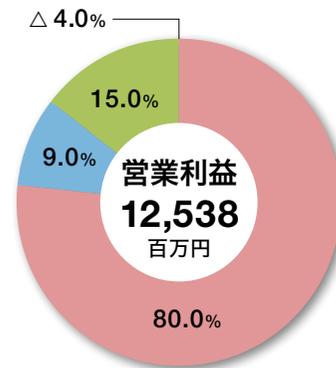
織 維事業はユニチカの原点。衣料素材や産業用素材をはじめ、二次製品の製造販売も積極的に手掛けています。衣料・生活用途では、グループ企業のユニチカトレーディングを中心に、関連会社が連携したシナジー効果を存分に発揮し、生産から販売まで大きくグローバル展開へとシフト拡大しています。

産業資材においては、土木・建築、水産、ヘルスケア用途を中心に、開発力を背景とした様々な差別化製品を展開しています。また、3Dプリンター用フィラメント等、細かな顧客ニーズに対応できる開発・生産・営業と一貫体制で対応しています。



2017年3月期
売上高構成比率 (百万円)

高分子事業	55,057
機能材事業	12,089
繊維事業	55,535
その他	3,536



2017年3月期
営業利益構成比率 (百万円)

高分子事業	10,035
機能材事業	1,130
繊維事業	1,932
その他	△578

高分子事業 - ① 事業の紹介

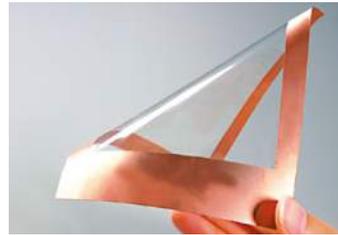
[製品紹介]

● フィルム ●



エンブレムHG

高ガスバリア性ナイロンフィルム。ポイル・レトルト用途に対応する高ガスバリア性能の保持性、高い物理的ストレス耐性を備えています。



ユニアミド

ユニチカのフィルム加工技術を駆使して開発した高耐熱ポリアミドフィルム。電気・電子用途に展開しています。

● 不織布 ●



マリックス

カーペットの基布として、自動車やインテリア用途で広く使用されています。



コットエース

綿100%のコットン spunbond。衛生面、環境面で優れ、生活に身近な幅広い用途展開を行っています。

● 樹脂 ●



NANOCON

剛性、耐熱性、成形加工性に優れた複合材料。エンジンカバーをはじめ、用途が拡大しています。



Uポリマー

ユニチカが世界に先駆けて工業化したポリアリレート樹脂。精密機器、自動車、機械、医療、食品、日用品といった様々な用途に採用されています。

[主要生産能力]

製品	国名	生産拠点	生産能力
ナイロンフィルム	日本	宇治事業所	25,000t
	インドネシア	P.T.エンブレムアジア	16,500t
ポリエステル spunbond	日本	岡崎事業所	20,000t
	タイ	Thai Unitika Spunbond Co., Ltd. (TUSCO)	10,000t

[市場占有率]

(当社推定)

製品	ナイロンフィルム	ポリエステル spunbond	コットン spunbond	ポリアリレート樹脂 (Uポリマー)
国内シェア	40% (1位)	35% (1位)	60% (1位)	100% 当社独自
主な用途	食品包装用(世界シェア 約15%)	自動車内装、建築・土木資材、農業資材、衛生材料、生活資材	衛生材料、生活資材、医療資材	自動車部品、電気・精密機器部材
当社の強み	同時二軸延伸技術商品のバリエーション	複合繊維化技術	天然資材のシート化技術	耐熱性・透明性

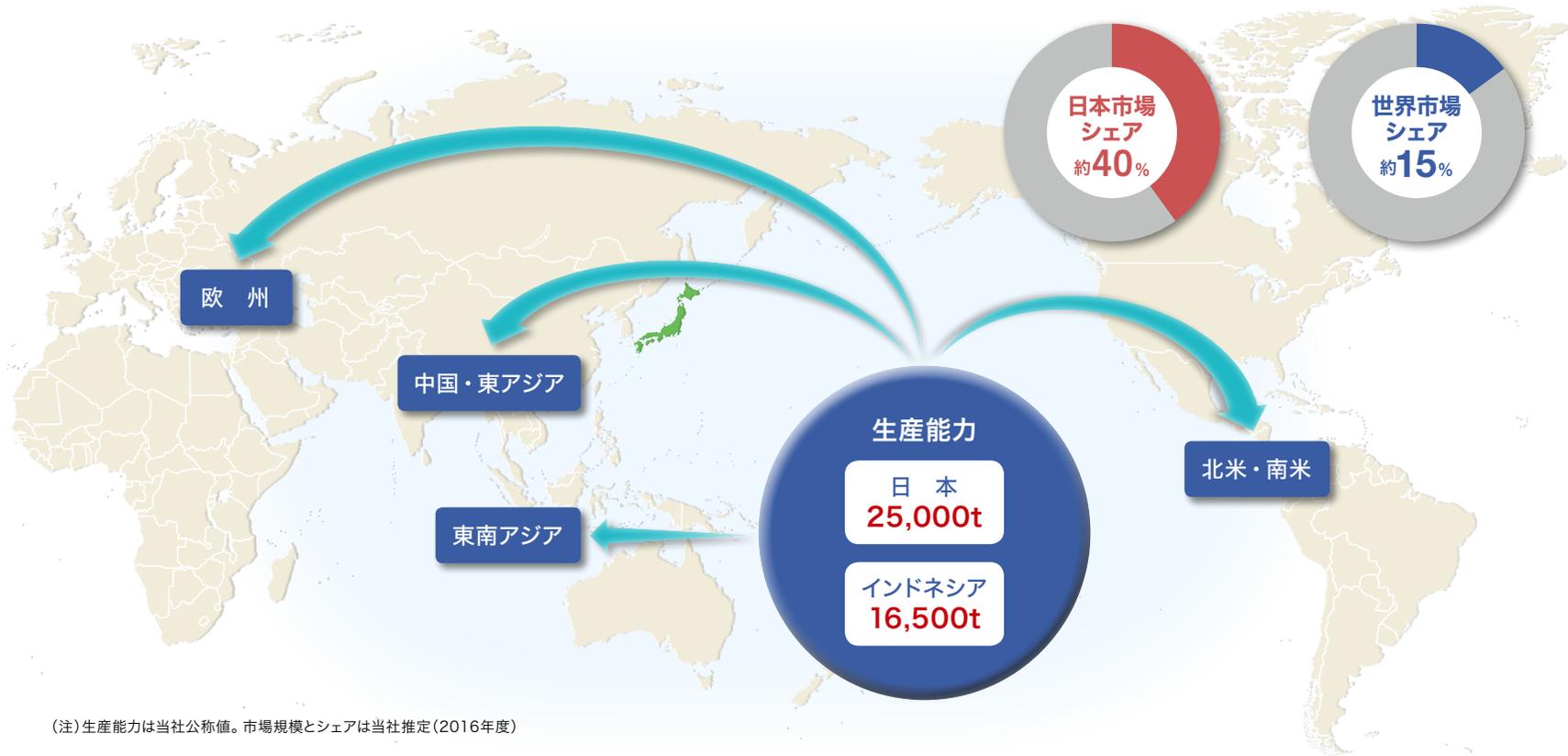
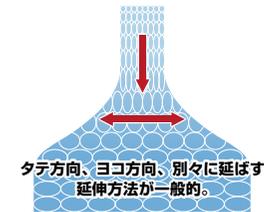
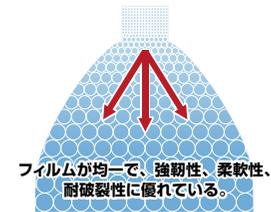
ナイロンフィルムのグローバル展開

“同時二軸延伸ナイロンフィルム「エンブレム」”

- ユニチカ独自の延伸技術により開発。
- 強靭性、柔軟性、耐破裂性等の特性を有する他に、高ガスバリア、易接着、帯電防止、易引裂、耐衝撃等の様々な機能を備えた製品シリーズで、主に食品包装用途で展開。
- 日本国内、インドネシアの生産拠点を軸として、アジア圏はもとより、欧米市場へ拡大中。

ユニチカ独自の技術：同時二軸延伸法

一般的な技術：逐次二軸延伸法



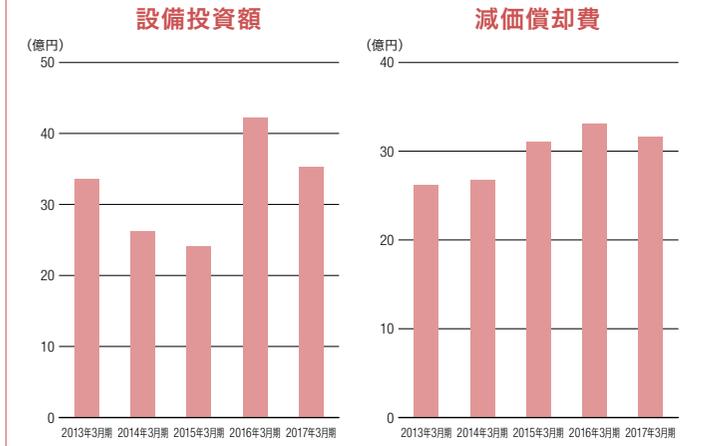
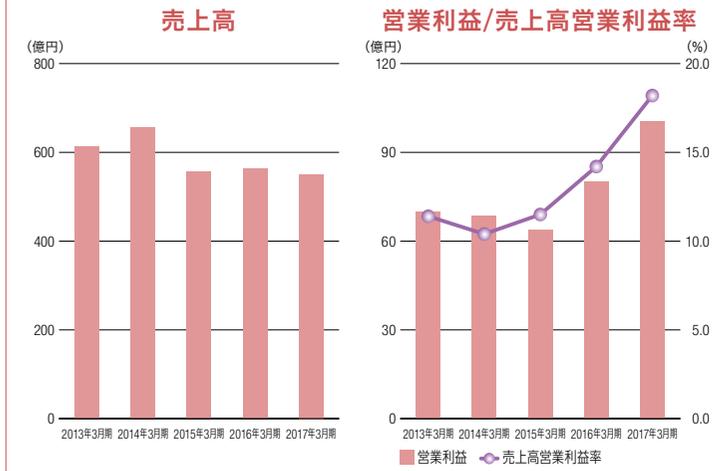
高分子事業 - ③

高分子事業の主な製造拠点と財務ハイライト



	製造拠点	事業内容
日本	宇治事業所	フィルム事業、樹脂事業
	(株)コソフ	樹脂事業(プラスチック成形加工)
	テラボウ(株)	樹脂事業(合成樹脂製品・原料及び成型品の製造販売)
	岡崎事業所	不織布事業(ポリエステルスパンボンド)
	日本エステル(株)	ポリエステル樹脂、短繊維、長繊維の開発・生産
	垂井事業所	不織布事業(コットンスパンレース)
インドネシア	P.T.エンプレムアジア	フィルム事業
タイ	Thai Unitika Spunbond Co., Ltd. (TUSCO)	不織布事業(ポリエステルスパンボンド)

財務ハイライト



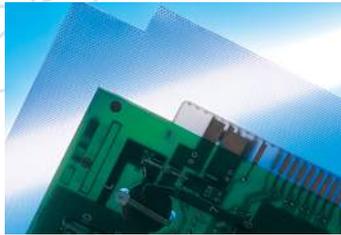
財務ハイライト	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高 (億円)	612.2	655.2	556.4	563.1	550.6
営業利益 (億円)	69.9	68.4	63.8	80.0	100.4
売上高営業利益率 (%)	11.4%	10.4%	11.5%	14.2%	18.2%
設備投資額 (億円)	33.6	26.2	24.2	42.3	35.3
減価償却費 (億円)	26.2	26.8	31.1	33.1	31.7

※2015年3月期の数値は、新セグメントで表記しています。

機能材事業 - ① 事業の紹介

[製品紹介]

● ガラス繊維 ●



プリント配線基板用ガラスクロス

素材から製織、表面処理まで、結集した技術による独自のクオリティを提供しています。



天井照明用クロス

織物に樹脂コートを施し、ソフトな照明を演出。防燃性を備えているので、火災防止にも効果を発揮。

● ガラスビーズ ●



ユニビーズ ロードマーキング用

道路の白線や横断歩道等ロードマーキングに使用され、再帰反射効果により夜間の視認性を高め、交通安全の重要な一端を担っています。



再帰性反射材

ガラスビーズを使用した再帰性反射材。安全ベスト・腕章・帽子等の反射テープ、道路標識、看板、ステッカー等に使用されます。

● 活性炭繊維 ●



デキシーフィルター

「アドール」を使用した活性炭繊維を使用したフィルター。液体や空気中の有害物質や不純物除去等で活躍しています。

[市場占有率]

(当社推定)

製 品	ガラスクロス(産業用)	ガラスビーズ
国 内 シ ェ ア	<p>20% (2位)</p>	<p>40% (1位)</p>
主 な 用 途	フィルター素材、FRP用、建築土木資材	各種反射材、工業用ビーズ
当 社 の 強 み	原織・製織技術	商品のバリエーション

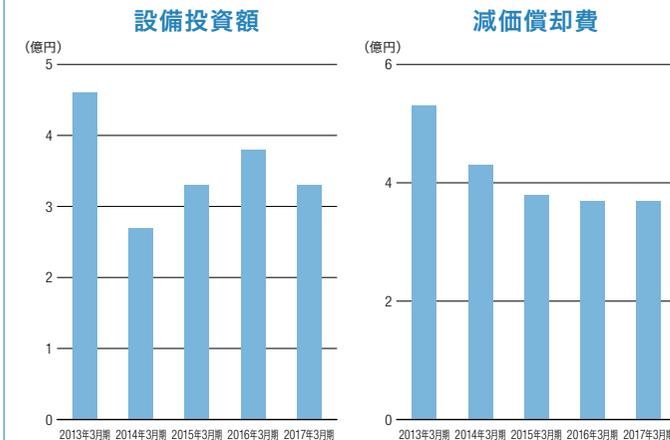
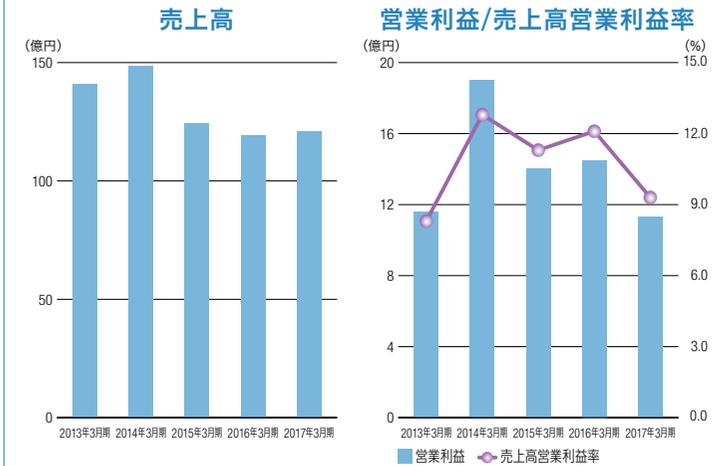
機能材事業 - ②

機能材事業の主な製造拠点と財務ハイライト



製造拠点		事業内容
宇治事業所内	ユニチカグラスファイバー(株)京都工場	ガラス長繊維の生産
	(株)アドール	活性炭繊維の製造販売
垂井事業所内	ユニチカグラスファイバー(株)垂井工場	ガラス長繊維から作られる各種製品の製造
(株)ユニオン		ガラスビーズの製造
ユニチカスパークライト(株)		再帰性反射シート、クロスの製造及び販売

財務ハイライト



財務ハイライト	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高 (億円)	140.8	148.6	124.2	119.1	120.9
営業利益 (億円)	11.6	19.0	14.0	14.5	11.3
売上高営業利益率 (%)	8.3%	12.8%	11.3%	12.1%	9.3%
設備投資額 (億円)	4.6	2.7	3.3	3.8	3.3
減価償却費 (億円)	5.3	4.3	3.8	3.7	3.7

※2015年3月期の数値は、新セグメントで表記しています。

繊維事業 - ① 事業の紹介

[製品紹介]

● 産業繊維 ●



フィッシングライン

素材開発の段階から、目的と用途に合わせてつくられる専用釣り糸です。



テラマック3Dプリンター用フィラメント

テラマック事業で蓄積されたPLAに関するノウハウと溶融紡糸技術の融合により、シャープな造形を実現するフィラメントです。



セグローバ

ポリエステルフィラメントを使った、河川の護岸のための浸食防止シート。従来のコンクリートブロックマットの二酸化炭素排出量に比較して、約90%の削減効果が期待できます。



防災メッシュシート

抜群の防災性能を発揮するメッシュ状の建築工事用シート。

● 衣料繊維 ●



ユニフォーム

オフィス・ワーキング・サービス等各種ユニフォームの素材開発・商品企画・生産までトータルに対応。素材をいかした高品質なユニフォームを提案しています。



ゼログ

発色性の良い高収縮ポリエステル素材。高反発のある糸の特性から、ソフトでしなやかさとハリ・コシがあります。

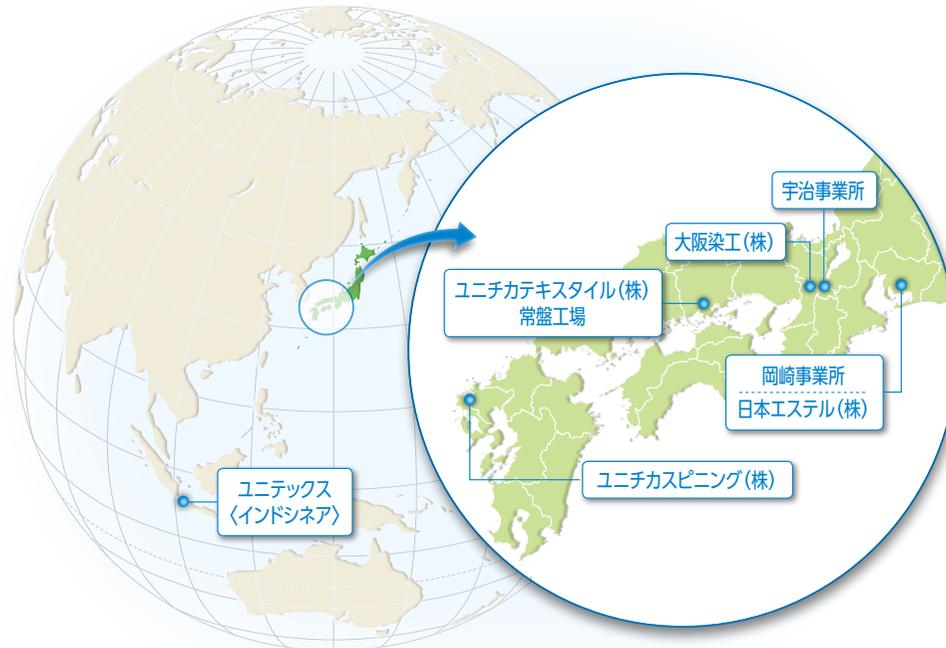


学校体育衣料

時代に合ったスクール向けスポーツウェアを提案。デザイナーズブランドとの提携も行っており、多彩な企画を展開。

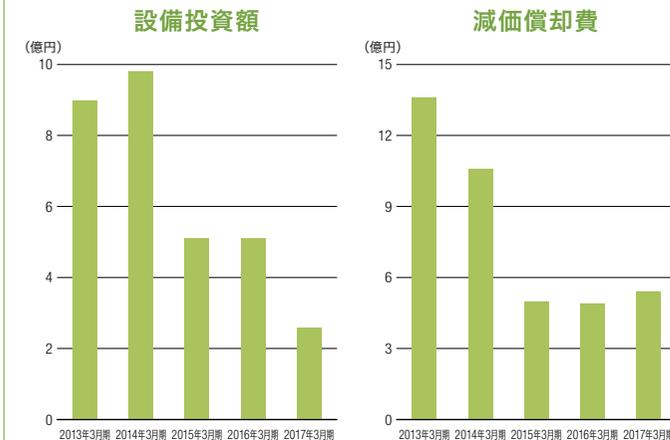
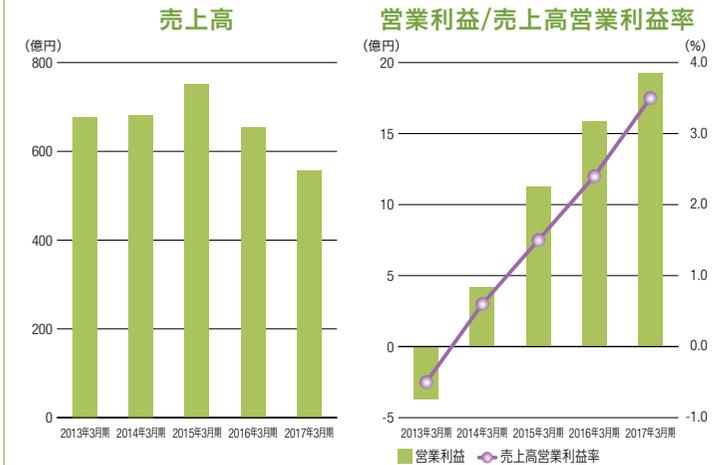
繊維事業 - ②

繊維事業の主な製造拠点と財務ハイライト



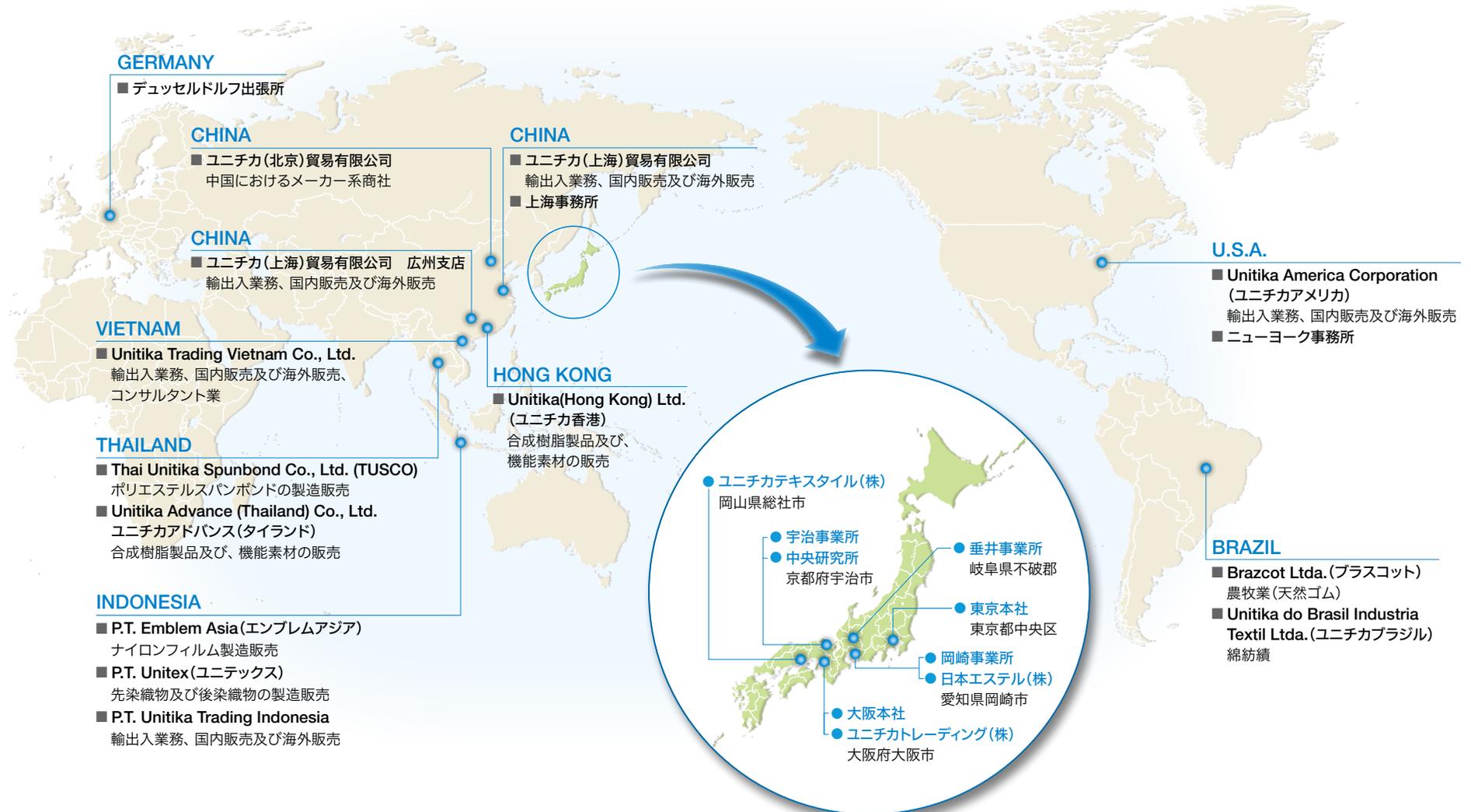
製造拠点		事業内容
日本	宇治事業所	繊維事業(産業繊維) モノフィラメントの製造
	岡崎事業所	繊維事業(産業繊維) 産業資材用のエステルフィラメントの製造
	日本エステル(株)	ポリエステル樹脂、短繊維、長繊維の開発・生産
	ユニチカテキスタイル(株) 常盤工場	繊維事業(衣料繊維) 綿、化合繊維製品の製造
	ユニチカスピニング(株)	合繊紡績
	大阪染工(株)	天然繊維及び化学繊維並びにその製品の染色、 捺染、漂白、整理加工及びこれらの製品の販売
インドネシア	P.T.ユニテックス	先染織物及び後染織物の製造・販売 綿糸・綿ポリエステル混紡糸の製造・販売

財務ハイライト



財務ハイライト	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高 (億円)	677.1	681.7	751.3	654.3	555.4
営業利益 (億円)	△3.7	4.2	11.3	15.9	19.3
売上高営業利益率 (%)	△0.5%	0.6%	1.5%	2.4%	3.5%
設備投資額 (億円)	9.0	9.8	5.1	5.1	2.6
減価償却費 (億円)	13.6	10.6	5.0	4.9	5.4

※2015年3月期の数値は、新セグメントで表記しています。

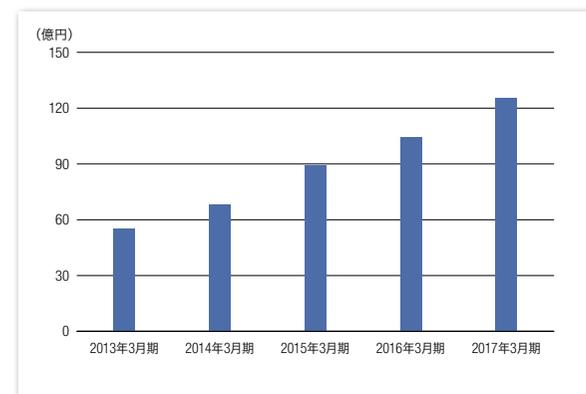


財務ハイライト：経営実績

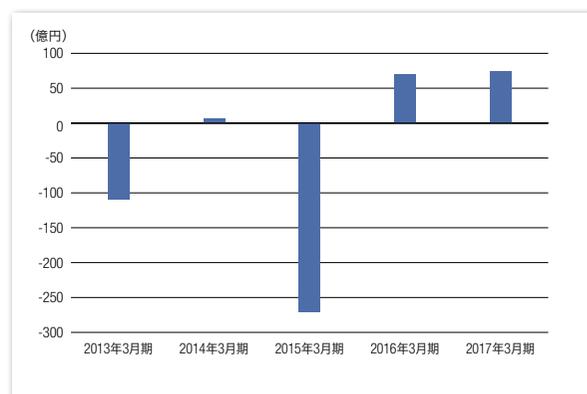
売上高/売上高営業利益率



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



EBITDA

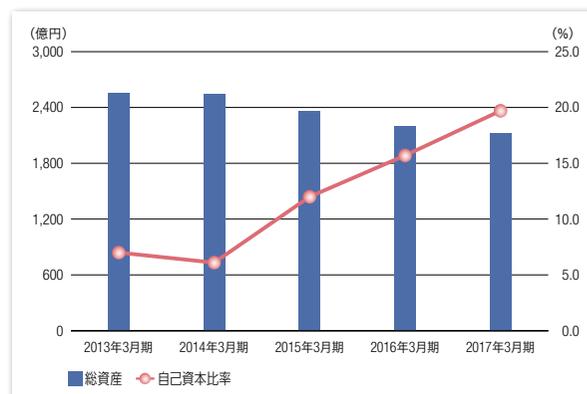


経営実績 (億円)

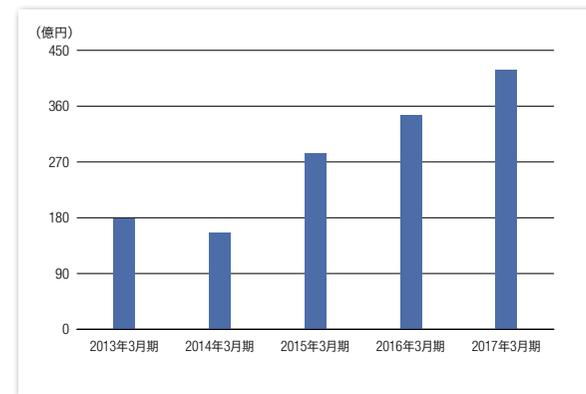
	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	1,601.9	1,626.9	1,591.3	1,464.7	1,262.2
営業利益	55.2	68.0	89.2	104.5	125.4
売上高営業利益率 (%)	3.4%	4.2%	5.6%	7.1%	9.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 108.8	5.8	△ 270.3	69.3	73.9
EBITDA	110.0	117.4	136.3	150.1	168.3

財務ハイライト：財務状況

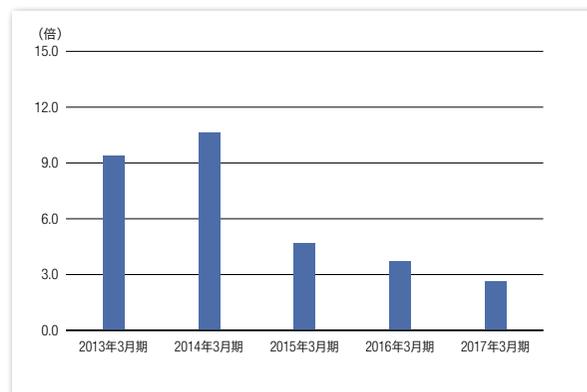
総資産/自己資本比率



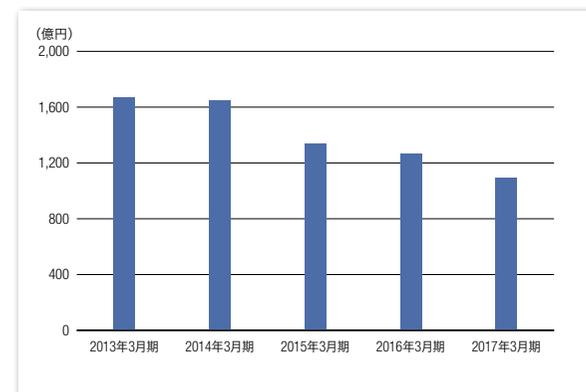
自己資本



D/E レシオ



有利子負債額

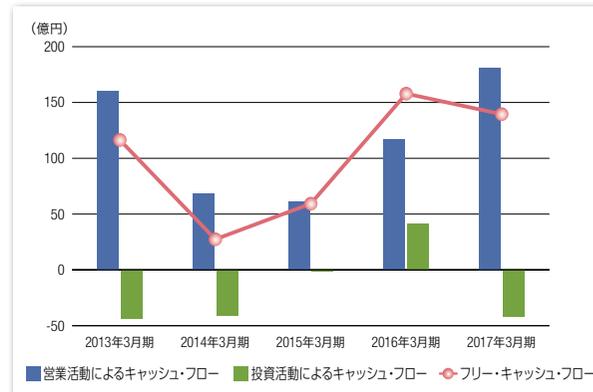


財務状況 (億円)

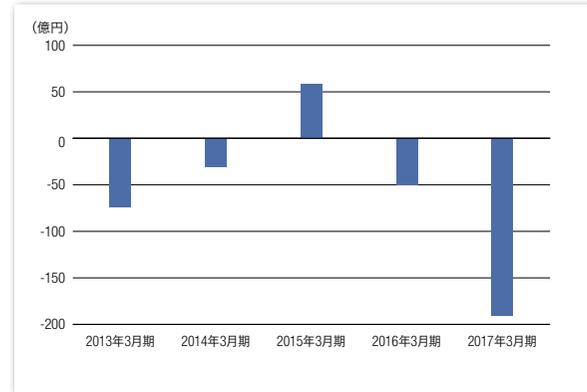
	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
総資産	2,550.5	2,541.8	2,358.8	2,199.6	2,118.7
自己資本	178.1	155.4	283.6	346.0	418.4
自己資本比率 (%)	7.0%	6.1%	12.0%	15.7%	19.7%
D/E レシオ (倍)	9.4	10.6	4.7	3.7	2.6
有利子負債額	1,665.2	1,645.5	1,339.0	1,263.3	1,093.3

財務ハイライト：キャッシュ・フロー、設備投資額、減価償却費、研究開発費

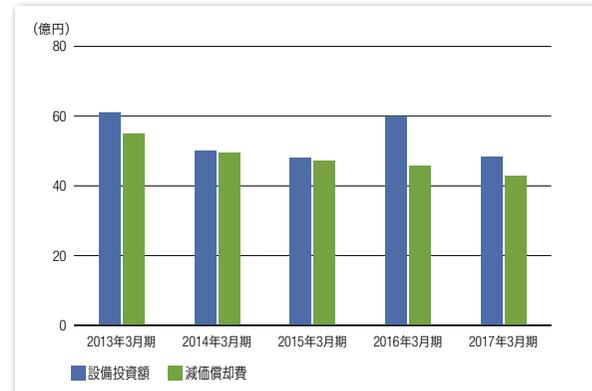
営業キャッシュ・フロー/投資キャッシュ・フロー/ フリー・キャッシュ・フロー



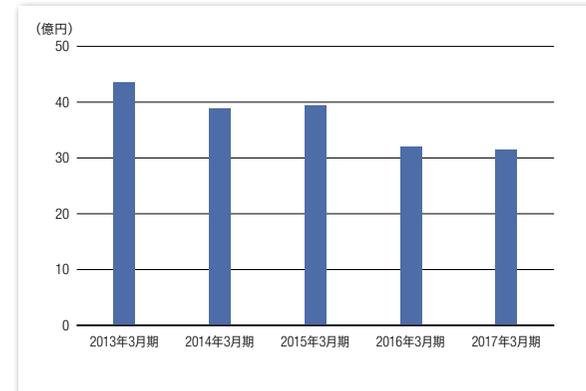
財務活動によるキャッシュ・フロー



設備投資額/減価償却費



研究開発費

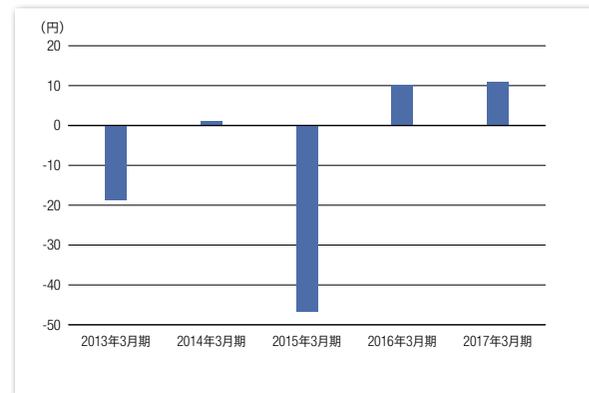


キャッシュ・フロー (億円)

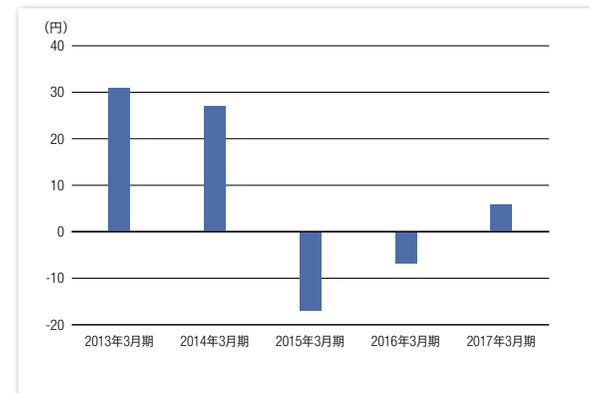
	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	160.4	68.4	60.8	116.6	181.1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44.0	△41.0	△1.5	41.2	△41.6
フリー・キャッシュ・フロー	116.4	27.4	59.3	157.9	139.5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74.3	△30.5	58.7	△50.1	△190.9
設備投資額	61.0	50.0	48.1	59.7	48.3
減価償却費	54.8	49.4	47.2	45.6	42.9
研究開発費	43.5	38.8	39.4	32.0	31.4

財務ハイライト：1株当たり指標、その他指標

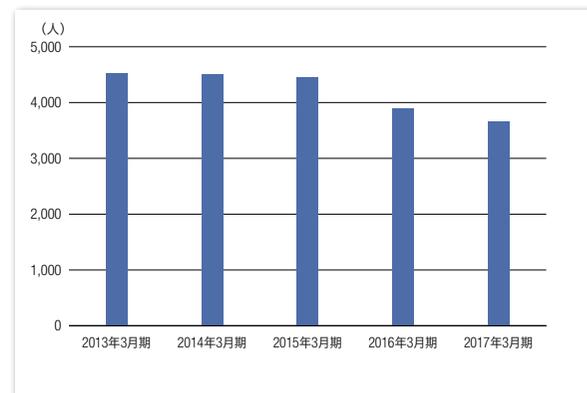
1株当たり当期純利益



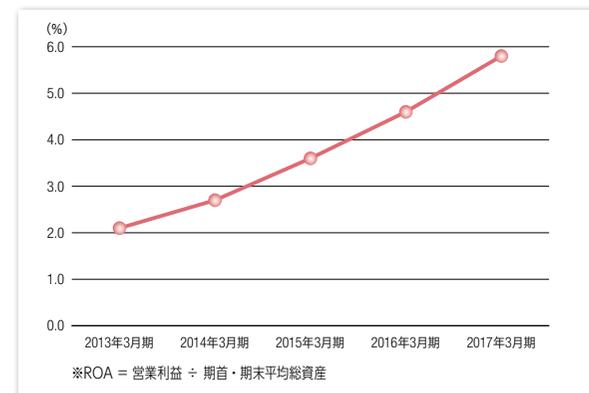
1株当たり純資産



従業員数(連結)



営業利益ROA



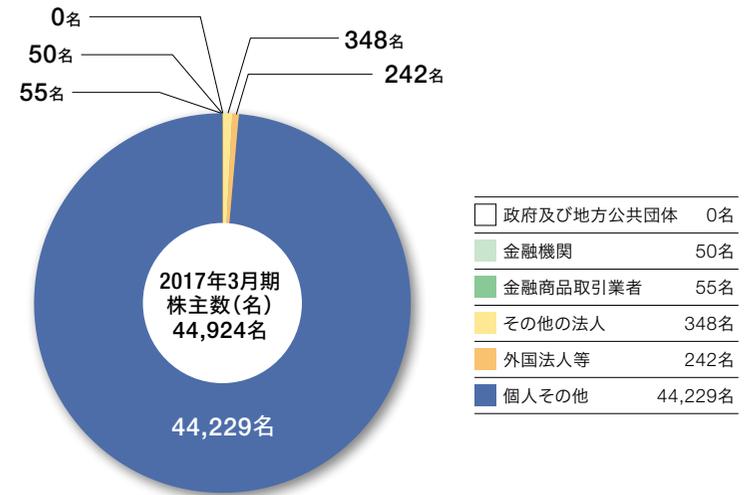
1株当たり指標、その他指標

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
1株当たり当期純利益 (円)	△ 18.87	1.01	△ 46.87	10.29	11.08
1株当たり純資産 (円)	30.88	26.94	△ 17.01	△ 6.76	5.80
従業員数 (人)	4,534	4,513	4,458	3,906	3,671
営業利益ROA (%)	2.1%	2.7%	3.6%	4.6%	5.8%

株式情報：所有者別株式分布の状況

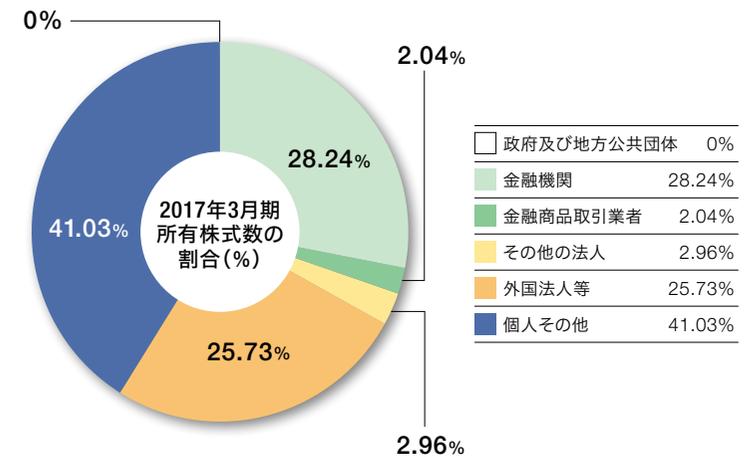
株主数の推移 (名)

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
政府及び地方公共団体	0	0	0	0	0
金融機関	52	53	48	50	50
金融商品取引業者	71	68	66	57	55
その他の法人	416	406	397	385	348
外国法人等	198	204	207	226	242
個人その他	57,793	57,402	54,632	51,501	44,229
合計	58,530	58,133	55,350	52,219	44,924

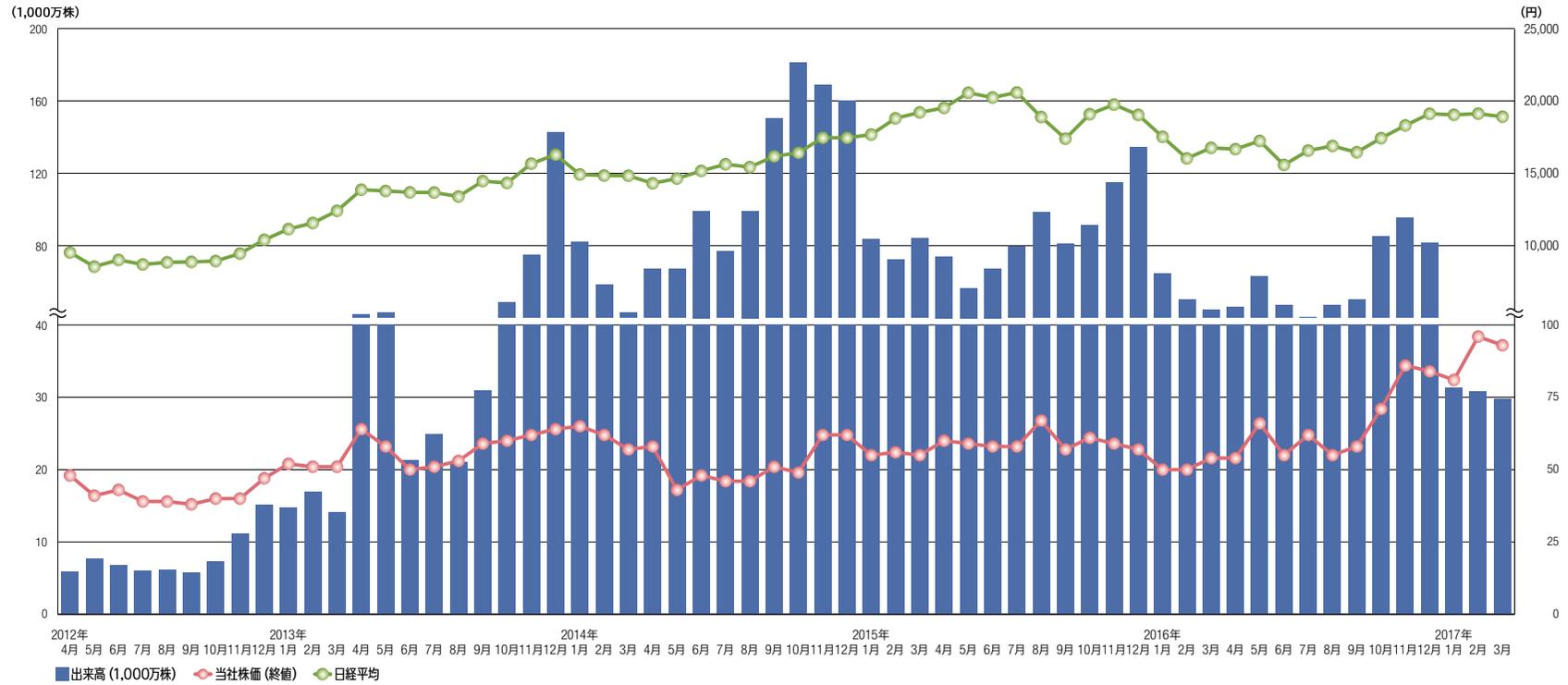


所有株式数の割合の推移 (%)

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
政府及び地方公共団体	0	0	0	0	0
金融機関	24.48	24.02	24.31	26.27	28.24
金融商品取引業者	2.88	5.5	3.27	3.4	2.04
その他の法人	3.88	4.39	3.28	3.13	2.96
外国法人等	10.97	8.66	13.58	11.31	25.73
個人その他	57.79	57.42	55.57	55.89	41.03
合計	100	100	100	100	100



株式情報：株価チャート



日付	2012年												2013年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
当社株価(終値):(円)	48	41	43	39	39	38	40	40	47	52	51	51	64	58	50	51	53	59	60	62	64			
日経平均:(円)	9,521	8,543	9,007	8,695	8,840	8,870	8,928	9,446	10,395	11,139	11,559	12,398	13,861	13,775	13,677	13,668	13,389	14,456	14,328	15,662	16,291			

2014年												2015年											
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
65	62	57	58	43	48	46	46	51	49	62	62	55	56	55	60	59	58	58	67	57	61	59	57
14,915	14,841	14,828	14,304	14,632	15,162	15,621	15,425	16,174	16,414	17,460	17,451	17,674	18,798	19,207	19,520	20,563	20,236	20,585	18,890	17,388	19,083	19,747	19,034

2016年												2017年		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
50	50	54	54	66	55	62	55	58	71	86	84	81	96	93
17,518	16,027	16,759	16,666	17,235	15,576	16,569	16,887	16,450	17,425	18,308	19,114	19,041	19,119	18,909

※2017年10月1日に株式併合(10:1)を実施し、単元株式数を100株へと変更しています。なお、発行可能株式総数及び普通株式の発行可能種類株式総数はそれぞれ1,786,000,000株から178,600,000株となりました。

コーポレート・ガバナンスについて

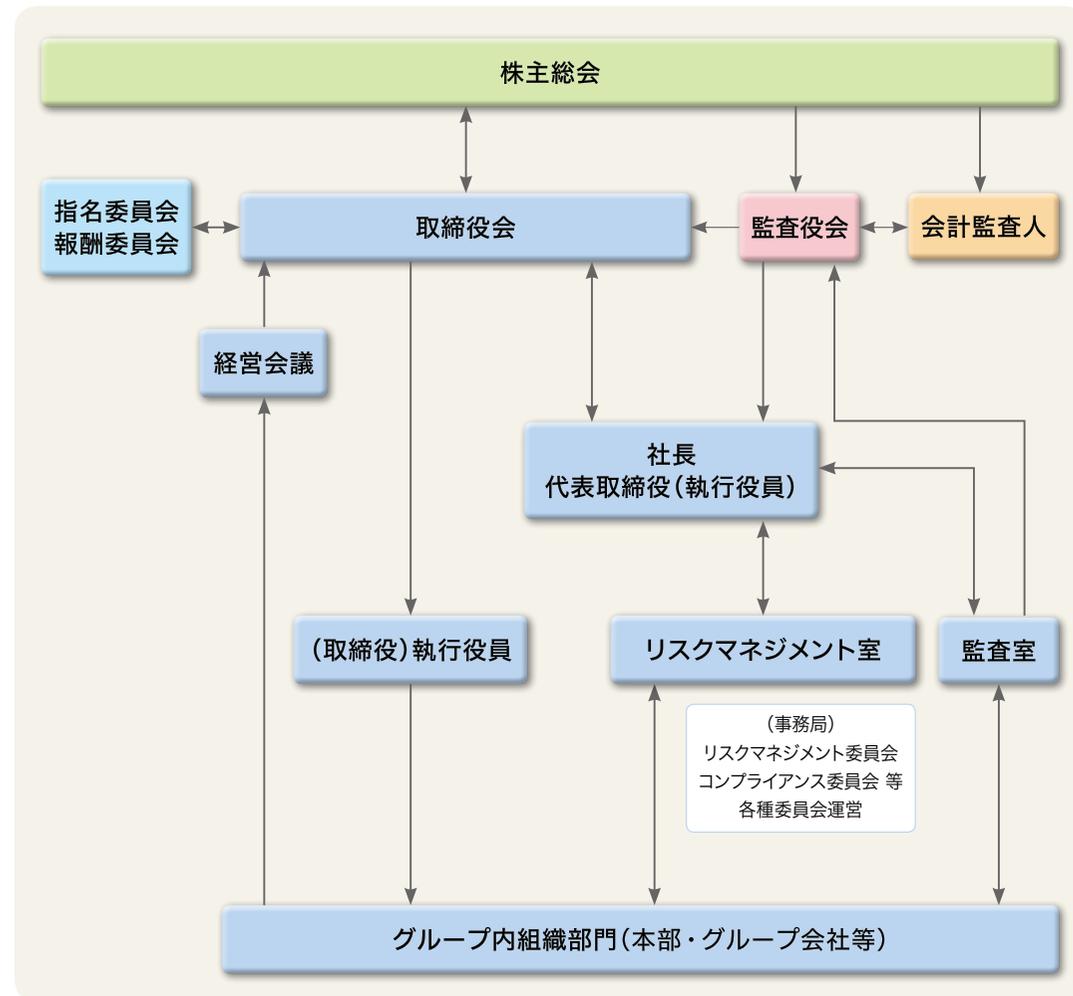
当社は、持続的成長及び長期的な企業価値の向上を図る観点から、意思決定の透明性、公平性を確保するとともに、保有する経営資源を十分有効活用し、迅速・果断な意思決定が行えるよう、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

当社は「監査役会設置会社」の機関設計を採用し、また「経営意思決定・経営監督機能」と「業務執行機能」を明確化するための仕組みとして執行役員制度を導入し、取締役と執行役員の相互連携等による経営の機動性、効率性向上を図っています。

また、監査役会が中心となり、法令・定款等の基準に従い、経営方針、業務執行等に対する監査、監視機能を果たしています。

現在の役員体制 (2017年6月末)

- 取締役 7名
 - ・取締役執行役員 5名
 - ・社外取締役 2名
- 執行役員(取締役以外) 10名
- 監査役 4名
 - ・常勤監査役 1名
 - ・非常勤監査役 3名
(内社外監査役2名)





ユニチカ株式会社

<https://www.unitika.co.jp>